

YWVOB会 会報 No.46

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://ywvob.com/>

2010年12月27日発行

～ 46号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・1	・シニアの集い報告・・・・・・・・・・・・・11
・2011 年度OB 総会報告・・・・・・・・・・・・・2	・自由投稿・・・・・・・・・・・・・15
・第4回 OB 役員会報告・・・・・・・・・・・・・7	ヒマラヤ山麓トレッキング
・第29回 OB 山行（赤城山）報告・・・・・・・・・・・・・8	バングラデシュという国
・2011 年度OB 山行の予定・・・・・・・・・・・・・9	青丹よし奈良の都は、、、
・第30回 OB 山行（箱根・駒ヶ岳）案内・・・・・・9	・期別報告（40年を経て集まる10期）・・・・・・17
・苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・10	・YWV 現役部員の活動紹介・・・・・・・・・・・・・18
OB 小屋委員長交代のご挨拶	夏合宿/夏山/PW 富士山/部室の改装他
新 OB 小屋委員長就任のご挨拶	・編集委員からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・19

■ YWVOB会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男（9期）

早や何かと気ぜわしい師走、新しい2011年を迎えようとしています。世の動きはいつものように実に早く動き、我々は取り残されてしまうような錯覚を覚えてしまいます。地球の自然もどうやらじわりと変化しているようで世界各地が異常気象に遭遇していると思わざるを得ません。そんな中、社会で現役として活躍している会員の皆様は、社会の疎外感を払拭すべく頻度は少なくとも泰然とした自然に回帰していることでしょうか。シニアの世代は自由時間が豊富なのか、意図を持って容易に素晴らしい自然を享受されているかと推察します。

何れにしても、このOB会をそれらの機会作りに大いに活用して頂ければと思います。また母体ワンダーフォーゲル部の新入部員が今年9人と急増したことは、OB会にとっては非常に嬉しい現象であり、可能な限り支援をしていきたいと考えます。



横国大ホームカミングデー交流会にて 円陣を組みみはるかす熱唱 2010/10/30 撮影 12期 榎本氏

2011年度OB総会報告

総務委員長 横溝 真司 (21)

副委員長 白木 政隆 (21)

【実施日時/場所】 2010年10月30日(土) 常盤台キャンパス(大学会館3Fミーティングルーム)
(総会) 11:45~13:30 (懇親会) 13:30~16:00 (HCD交流会会場にて)

【出席者】 嘉納(1) 吉野、塚原、米屋(2) 郡司(4) 岡田(6) 松本、北村(7) 小出、早坂、平沼、
溝田(8) 鈴木(9) 下村、山本(10) 安藤(11) 山川、榎本(12) 白須、小浜(17) 山口(18)
笛木(19) 石垣、西田、安武(20) 横溝、白木(21) 小野、親跡(34) 渡邊(36) 野中(52)
OB 30名、現役1名 計31名 ※交流会参加者30名

【議事内容】

1) 定足数確認(総務委員長)

定足数 25期 出席 30名(17期) 委任状15期を加え定足数に達している。

議長・・・西田(20) 書記・・・白木(21)

2) 開会の挨拶と年間総括・11年度活動方針(会長)

[年間総括]・役員会はオブザーバーの出席者を拡大して、開かれた会議を目指して計画通り実施。

- ・会報では現役の紹介やインタビュー等も増やして実施。
- ・メルマガについては月一回定期的に発行。双方向の情報交換も含めて内容の充実に努めた。
- ・ホームページについては会報、メルマガとは異なる、よりタイムリーな情報発信をした。
- ・部史編纂では電子化の推進を図り、今後システムの方向性を検討していく。また紙資料を整理するために部室にラックを寄付した。
- ・小屋活動は多くのイベントを実施、トピックスとして小屋の老朽化に対応すべく基礎部分の交換を実施して更新した。
- ・現役支援活動として、現役への支援拡充、交流を進めてきた。
- ・期にまたがる交流を促進して、より交流の輪を拡大してきた。
- ・山の保険等について広報活動を実施。

[活動方針]・OB山行の参加者の拡大(現在の15名⇒30名台を目標とする)

- ・苗名小屋の更なる利用者拡大の企画を検討する。
- ・部史編纂DBの今後の活用について議論を進めていく。
- ・会報の更なる充実に促進する。
- ・メルマガの機能向上とタイムリーな発信を目指す。
- ・HPの更なる進化を図り広く利用してもらう。
- ・現役部員が更に苗名小屋を利用してもらうよう助言をしていく。
- ・期をまたがる交流を促進して、更に活動の理解と参画の拡大を図る。
- ・世代交代を見据えた形での役員会の運営を進めていく。

3) 2010年度事業報告と2011年度計画(各委員会の補足)

A) OB山行委員会

報告:1月伊豆ヶ岳(20名参加)、5月川苔山(16名)、10月赤城山(16名)

計画:1月箱根駒ヶ岳+記念行事(泊)、5月毛無山、10月金峰山

B) 部史編纂委員会

報告:部室大改造の説明(部史の整理+部室全体の整理整頓実施)

計画:現在のOB会員だけでなく「現役時代名簿」を作成中、協力をお願いしたい。

(現在のOB会員は約500名だが、どれだけ増えるか楽しみにしている)

C) OB小屋委員会

報告:苗名小屋床の状況と修理内容の説明(排水口整備、北壁(床と連動)取り壊し通気口設置、基礎補強、板張り)11月壁貼りで終了予定

4) 2010年度決算報告(会計幹事と監査報告)

A) 一般会計・・・収入・支出とも会計は100%に推移

プロジェクトと事故処理等のその他計画外支出(約20万)があったが捻出できた。

現預金総額 2,666,612 円 (他 5,238,000 円の特別準備金)

- B) 小屋会計・・・小屋宿泊費はOB会にて管理することに変更して収入が増加、支出は予定通り実施
- C) 監査報告・・・決算報告書、添付書類について問題なし (監査役)

5) 2011 年度予算提案 (会計幹事)

- A) 一般会計予算案・・・収入 70 万、支出 80 万で計画実施
部史編纂事業での新規費用として、45,000 円捻出
予備費 10 万は、現役仕行会費用他として使用
- B) 小屋会計予算案・・・OB 会+宿泊料金で 180,000 円の収入予算
基礎工事、床貼り替えで 760,000 円を支出、支出計は 911,000 円と大幅アップ。

6) 質疑応答

- A) 資産の確認、並びに小屋の今後を検討していく必要があるのでは？
⇒国立公園に建っていることもあり慎重に進めていく必要がある。
⇒小屋の未登記の問題等もあり難しい課題もあり。
- B) 寄付金でなく、年会費を増やす方向も考えていくことも検討してはどうか？
⇒現状では年度会計は寄付金がないとやっていけない。10 年前に会費を上げた経緯もあり会費を上げていくのは難しいと判断しており、今後も区分けをしてきたいと思う。 ⇒了解された。

7) 2010 年度事業報告と 2011 年度計画についての採決【一括決議】

採決：満場一致で承認された。

- 8) 特別議題①：特別準備金の今後の扱いについて 昨年の総会で、役員会で検討することが確認された協定書の改訂を提案する。
採決：満場一致で承認された。

9) 特別議題②：会則の変更について

会則改正説明・・・現在新規会員の入会は OB 総会で承認することになっているが、交流の拡大と新規会員の入会をスピーディにするために役員会の承認に変更したい (年 1 回⇒年 4 回)
現役については 10 月に役員会で承認して、総会で紹介する。

採決：満場一致で承認された。

10) 役員改選および新役員の選出

退任：OB 小屋委員長：安藤(11)、監査役：榎本(12)

新任：OB 小屋委員長：榎本(12)、監査役：山崎(22)、総務委員：成島(22)、ホームページ委員：石垣(20)
部史編纂委員：金田(3)、谷上(4)、菅谷(6)、山下(17)、笛木(19)、安武(20)、石垣(20)、横溝(21)

再任：ホームページ委員長：吉村(3)、同副委員長：鈴木(9)

部史編纂委員長：嘉納(1)、同副委員長：塩野(46)

採決：満場一致で承認された。

- 11) 新 OB 会員 (8 人) の承認：51 期：茂呂、渡邊、中野、田沼、52 期：鈴木 19 期：松田 22 期：柳澤、橋岡
採決：満場一致で承認された。

- 12) 現役の活動報告 (52 期・主将 野中)：現役 18 名 (男子のみ)、夏に縦走 2 回

- 13) 閉会の挨拶 (総務委員長)



2011 年度 OB 総会出席者一同

2010/10/30 榎本氏 (12 期) 撮影

役員一覧

■・・・10.10.30 再任

□・・・10.10.30 就任

●・・・09.11.8 再任

○・・・09.11.8 就任

★・・・08.11.15 再任

☆・・・08.11.15 就任

会長	鈴木弥栄男(9)☆	OB 小屋委員	笹倉 実(30)★
幹事長	石川 真(41)★		安本 健一(30)★
副幹事長	西田 雅典(20)☆		田中 義人(34)●
会計幹事	吉野大次郎(2)●		親跡 冬樹(34)★
会計委員 (兼)	松本 和之(29)○		村山 浩樹(34)★
総務委員長	横溝 真司(21)☆		志賀 圭(44)★
総務副委員長	武藤 功二(20)☆ 白木 政隆(21)☆	OB 小屋委員会会計担当	松本 和之(29)■
総務委員	成島 和仁(22)□ 影井 康弘(34)★ 田村 顕洋(34)★ 渡邊 隆史(36)★	編集委員長	下村 蓉子(10)★
OB 山行委員長	小野恵美子(34)★	編集委員	松本真理子(8)★ 石垣 秀敏(20)○
OB 山行副委員長	小浜 一好(17)☆ 山口 貢三(18)☆	ホームページ委員長	吉村 元孝(3)■
OB 小屋委員長	榎本 吉夫(12)□	ホームページ副委員長(兼)	鈴木弥栄男(9)■
OB 小屋副委員長	後藤 誠史(39)☆	ホームページ委員 (兼)	石垣 秀敏(20)□
OB 小屋委員	郡司 直樹(4)★ 諸角 壮弼(5)★ 菅谷 光雄(6)★ 小口 雄平(14)★ 鈴木 道夫(14)★ 向井 良作(18)☆ 笛木 久栄(19)☆	部史編纂委員長	嘉納 秀明(1)■
		部史編纂副委員長	塩野 貴之(46)■
		部史編纂委員	金田 精彦(3)□ 谷上 俊三(4)□ (兼) 菅谷 光雄(6)□ (兼) 山下 暁(17)□ (兼) 笛木 久栄(19)□ (兼) 安武 和俊(20)□ (兼) 石垣 秀敏(20)□ (兼) 横溝 真司(21)□
		監査役	山崎 晃(22)□

OB 総会に遠方から参加しました

★ 安武和俊 (20期 栃木県那須塩原市)

10/30 (土) OB 総会に 31 名の方が出席し、各委員会からの熱心な説明や、意気軒昂なる活発な議論に驚きました。OB 山行報告では、毎回の盛況さと第 30 回記念山行の案内があり、また参加したいと思いました。引き続き、第 5 回 HCD 交流会へと場所を移し、学生時代に舞い戻ったかの如く、最後には全員で肩を組んで円陣となって「みはるかす」を歌いエールで締め括りました。更に、横浜駅東口の「崎陽軒」に 9 名が繰り出して 2 次会でも大いに盛り上がりました。

★ 親跡冬樹 (34期 新潟県妙高市)

総会当日は新潟を出て、台風 14 号に向かって突っ込んで行く格好になりました。国大を訪れるのは 1 年ぶりでしたが、正門にある階段の踊り場部分が、ウッドデッキのように造りかえられていて見違えました。交流会の終わりに、会場の中央でワンゲル一同「みはるかす」を歌うという楽しいハプニングもありましたが、来年から恒例の行事になっていくと面白いです。

★ 渡邊隆史 (36期 愛媛県松山市)

名簿係をしていながら、愛媛在住のため、なかなか会合には参加できず、50 周年記念以来の出席となりました。小屋、部史編纂、山行などに分かれた各委員会がそれぞれの中心メンバーのもと、活発に活動していることが実感できました。中でもうれしかったのは、現役の野中主将がスライドショーで活動報告をしてくれたことで、今年は 1 年生が 9 人も入部し、新錬一次、新錬二次、夏合宿と私の現役時代と変わらぬ山行を行なっていることをとても懐かしく、頼もしく思いました。今では OB 会の方がはるかに大所帯ですが、OB・OG もかつては皆現役でした。出身母体である YWV が元気にしっかりと活動していつくれるよう、今後も支援を続けていきたいと思います！

2010年度一般会計決算

(2009.10.1~2010.9.30)

前期繰越	1,231,721	1,231,721
------	-----------	------------------

収入			
費目	予算	実績	差額
年会費	100,000	136,000	36,000
前納会費	370,000	385,000	15,000
一般寄付金	50,000	34,500	-15,500
小屋寄付金	100,000	127,820	27,820
総会参加費	0	0	0
山行参加費	20,000	24,300	4,300
名簿郵送関連	10,000	9,500	-500
その他収入	10,000	948	-9,052
計	660,000	718,068	58,068
(前納会費	370,000	385,000)	
(延人員	222名	231)	
(今年度納入	16名	23名)	

支出			
費目	予算	実績	差額
会報作成・発行費	350,000	341,955	-8,045
小屋会計振替	150,000	150,000	0
総会費用	50,000	34,000	-16,000
山行費用	30,000	23,789	-6,211
役員会費用	30,000	24,626	-5,374
HP委員会費用	15,000	6,800	-8,200
部史編纂委員会費	45,000	7,410	-37,590
名簿郵送費	5,000	16,266	11,266
その他(予備費)	200,000	200,331	331
計	875,000	805,177	-69,823
当期収支	-215,000	-87,109	127,891
次期繰越	1,016,721	1,144,612	127,891
(前納会費繰延	1,150,000	1,205,000)	

[一般会計]

資産	負債	2010.9.30	
振替口座	387,277	次期繰越	1,144,612
普通預金	2,131,260	繰越前納会費	1,205,000
仮払金	148,075	前受金	317,000
計	2,666,612	計	2,666,612

[特別準備金]

資産	負債	2010.9.30	
普通預金	291	特別準備金	5,238,291
定額貯金	5,238,000		
計	5,238,291	計	5,238,291

2010年度OB小屋会計決算

(2009.10.1~2010.9.30)

前期繰越金(2009.10.1)	1,403,964	①
------------------	-----------	---

2010年度収支計算書	
収入	
OB会計より振替	
・小屋寄付金	150,000
小屋宿泊料金	63,771
預金口座利子	584
OB小屋会計収入合計	214,355

支出	
小屋地代	10,000
除雪費用	0
除雪作業補助	48,000
小屋整備修繕(DIY・床張替調査・他)	89,736
床張替資材	94,180
振込手数料	210
OB小屋会計支出合計	242,126

当期収支(②-③)	-27,771
-----------	---------

次期繰越金(2010.9.30)	
預金(①+②-③)	1,376,193

2011年度一般会計予算案

(2010.10.1~2011.9.30)

(10年度実績)(11年度予算)

前期繰越	1,231,721	1,144,612
------	-----------	------------------

(収入)			
費目	10年度実績	11年度予算	差額
年会費	136,000	120,000	-16,000
前納会費	385,000	390,000	5,000
一般寄付金	34,500	50,000	15,500
小屋寄付金	127,820	100,000	-27,820
総会参加費	0	0	0
山行参加費	24,300	20,000	-4,300
名簿郵送関連	9,500	10,000	500
その他収入	948	1,000	52
計	718,068	691,000	-27,068

(前納会費	385,000	390,000)
(延人員	231名	234名)
(当年度納入	23名	20名)

(支出)			
費目	10年度実績	11年度予算	差額
会報作成・発行費	341,955	350,000	8,045
小屋会計振替	150,000	150,000	0
役員会費用	24,626	30,000	5,374
総務委員会費用	34,000	40,000	6,000
山行費用	23,789	70,000	46,211
HP委員会費用	6,800	15,000	8,200
部史編纂委員会費用	7,410	45,000	37,590
名簿郵送費	16,266		-16,266
その他支出(予備費)	200,331	100,000	-100,331
計	805,177	800,000	-5,177

当期収支	-87,109	-109,000	-21,891
------	---------	-----------------	---------

次期繰越	1,144,612	1,035,612	-109,000
(繰越前納会費	1,205,000	1,015,000)	

前期繰越金(2010.10.1)	1,376,193	①
収入		
OB会計より振替 ・小屋寄付金	150,000	
小屋宿泊料金	30,000	
預金口座利子	0	
OB小屋会計収入合計	180,000	②
支出		
小屋地代	10,000	
除雪費用	0	
除雪作業補助	50,000	
小屋整備修繕(DIY・他)	100,000	
基礎工事、床張替費用	760,000	
振込手数料	1,000	
OB小屋会計支出合計	911,000	③
当期収支(②-③)	-731,000	
次期繰越金(2011.9.30)①+②-③	645,193	

OB会員近況報告(総会ハガキより)

総務委員(名簿係) 渡邊隆史(36期)

期	姓	名	近況
2	北見	美智子	毎年の会報、楽しく読ませてもらっています。シニアOB会の山行にはできるかぎり参加していますが、OB会の活動がこんなに長く続いているのは、多くの方々の影の力があるわけで、感謝いっぱいです。女性では最高年令の2期ですから、あとどれほど皆さんと山へ行けるのか気になるこの頃です。
3	井上	肇	この4月から遠出の仕事をやめ、近場の仕事のみとしました。地元町内会長をやっているためか、なかなかひまになりません。
3	江崎	伴雄	横浜国立大学大学院の環境情報学府の修士課程を平成22年3月に修了し、「環境学修士」になりました。(その間、シニアOB会の月例山行は、ほとんどごぶさたになってしまいました)
3	平林	茂	会報をいただくたびに、立派な組織になっているのだと感心しています。ごくろうさまです。そして現役の少なさに、時代なのかなあとも考えてしまいます。私の方は、旅に出るユトリがないさびしい日々です。
3	三神	廣臣	元気にしていますが、身体の各部位に経年劣化現象が顕著になりました。
4	谷上	俊三	とにかく忙しい毎日です。県の仕事:自然公園指導員...登山道巡視、補修他。市の仕事:伊勢原市広報写真。私の仕事:日本写真協会映像教育推進委員会。ボランティア:伊勢原市学習ボランティア、パソコン教室手伝い。その他:病院通い(心臓、高血糖)、群馬榛名通い(女房の母親の面倒)、個人的山歩き、写真撮影、写真展他。
4	永田	明彦	今年の夏も8月始めに1週間の予定で仙台からフェリーで北海道に出かけ、4回山歩きをしてきました。すべて麓の温泉から日帰りです。今月も18日から約1週間の予定で北海道に山歩きに出かけます。こちらは小学校の同級生(北大出の東京のお医者さんで札幌にも家を所有)夫婦との山歩きです。一昨年まで2回秋に山歩きをしましたが、あまり天候には恵まれず、雹・雷にあたり、強風にあたりしてすべて途中で引き返しています。今年こそ、良い天候と紅葉を期待しているのですが、また、10月下旬はYVV4期の同期会が奈良であります。
6	石井	靖政	天候が良ければ午前中はベランダで洗濯物を干し、植木鉢に水をまいた後、スポーツジムに通ってエアロビクス、水泳、マシンでトレーニングし、午後はテレビを見たり読書をしたりそしてウトウト。
6	菅谷	光雄	癌の後遺症の「痛み」に悩まされている毎日です。70才前後になると、何かこういった症状に悩まされるものですが、シニアOBのやっておられる[月例ワンダリング]に参加されている方は、とても元気の様ですね。月例W等への参加は夢のまた夢ですが、案内状が来るとイマジネーションWをして皆様の元気に肖っております。
6	永井	紀子	孫の保育園の送迎で、時間がなかなかとれませんが、6月に韓国済州島のハルラ山、7月に槍ヶ岳に登頂しました。脚力がないので時間はかかりましたが、天気に恵まれ仲間に恵まれました。
7	菅谷	美智子	ルツェルンとザルツブルグの夏の音楽祭に今夏行きました。世界で最古の登山鉄道に乗り、スイスアルプスを眺めました。
8	高橋	弓子	暑い日々から一気に秋へ。秋の草花が咲き乱れる山道を歩きたいです。
8	武藤	直子	毎日ゆったりのんびりすごしています。月1回2泊3日を標準にして、日本中を旅しています。狭い日本なのに、どこに行っても温泉が出るのはものすごい魅力です。山に登って温泉にはいるなんて最高のぜいたくです。8月は休暇村羽黒に泊って月山に登ってきました。
10	山本	陽一	2009年7月、長女が長女を出産(初孫誕生)。9月、キリマンジャロ登頂。12月、北岳登頂。2010年3月、フルマラソンで40歳以降のベストタイム(佐倉マラソン)。
11	安藤	貞利	今年2月に定年退職しました。退職後、長年の夢でしたシニア海外ボランティアに応募しまして、9月によりやく合格して、ベトナム(ホーチミン市)に派遣が決まりました。2011年4月の出発です。

14	鈴木 道夫	仕事と家族のことで忙しくしています。今年の2月に16期の松田康史さんが亡くなっていたと知りました。長身のハスキーボイスで独特なキャラでした。4月の北八ヶ岳、8月の白馬・雪倉・朝日の縦走などで一緒に残念なことです。一日一日を大切に生きていこうと思ひますわ
15	小泉 啓治	元気にやっています。今年の夏は札幌に住む長男一家をたずねて北海道に行き、大雪山に登って来ました。来年はもう少し花のある時期にカミさんと一緒に行こうと思っています。
15	西浦 章予	YWVOBメルマガの発行楽しみにしております。(いつも素敵な内容ありがとうございます)。年を重ねても年々教育現場は忙しくなるばかりです…。体力、気力を維持しつつ皆とOB山行に行ける日を楽しみにあと少し頑張りたいと思っています。一大決心をして栃木県大平町に第2の住まいを決めました。少しは山やスキーに近くなつたかもしれません!!
17	梅野 匡俊	現在、母校で研究と教育のお手伝いをいたしております。学校へおいでの際は、是非おより下さい。10/30は従前よりの予定があり、OB総会は欠席となります。皆様にお会いできないことを残念に思っております。
19	松田 美恵	主人(編注:16期 故松田康史氏)は2月10日に肺癌の為に亡くなりました。生前は映画のプロデューサーという不規則な仕事だったため、皆様にはすっかり御無沙汰をしてしまっておりました。カンヌ映画祭の赤絨毯を踏むこともでき、本人なりに楽しく愉快な人生だったと思います。「クライマーズ・ハイ」では谷川岳の登山シーンで久しぶりにWV時代を思い出していました。私は19期に途中まで在籍しておりました。会報は主人と一緒に懐かしく楽しみにしておりました。主人は亡くなりましたが、今まで通り、届けていただけるとうれしです
19	笛木 久栄	今年は小学校の理科支援員として徐々に給食を食べながら楽しんでます。母の海外旅行の希望をかなえる為に短期のクルーズに2回参加しました。
19	高松 仁子	転居しました。会報になつかしいお名前を見つけ写真をよくよく見ても結びつきません…!お目にかかれる機会を楽しみにしています。
23	丸茂 俊二	昨年松山に3泊し、石鎚山へ登り、松山市内観光をして、出張目的の伊方原子力発電所見学してきました。とてもよかったです。今度は家族で行きたいと思っています
27	遠藤 勝哉	東京に転勤になり、現在単身赴任中です。昨年末から20年以上愛したタバコもやめ、最近ジョギングを始め、健康に気を使っております。
29	禅 知明	横浜国立大学で改組が行われます。来年4月より教育人間科学部と工学部が一部一緒になり、新生の教育人間科学部と理工学部になります。現在の学部1~4年生は卒業まで今の学部のままです。と、そんな準備に終われる日々です。。。
41	笠原 正大	いつも会報等のご送付、ありがとうございます。仕事のためOB会の集まりには中々参加できない中、お知らせを楽しみに読ませて頂いております。

第4回 OB会役員会報告(10月23日)

副幹事長 西田 雅典 (20期)

【参加者】 嘉納 (1) 吉野 (2) 吉村 (3) 鈴木 (9) 下村 (10) 安藤 (11) 榎本 (12) 山口 (18) 笛木 (19) 石垣、西田 (20) 横溝、白木 (21) 小野 (34) 塩野 (46) <オブザーバー>成島 (22) 山崎 (22) <現役> 野中 (52) 18名 現役1名 計19名

【議事・要旨】

1.各委員会報告

- ①総務委員会・・・11年度予算にメルマガ配信ソフト(2.5万円)、一括送信でレベルアップしたい
- ②OB小屋委員会・・・7月以降4回修理実施 10月床修理見積もり(76万円) 11月現地で状況確認
- ③編集委員会・・・12月末OB会報46号発行予定
「なえな小屋」の表記は?→従来通り「苗名小屋」(看板と同じ)
- ④OB山行委員会・・・10月16日赤城山山行実施、30回記念山行を1月22~23日実施予定
- ⑤ホームページ委員会・・・山行HPアップ
- ⑥部史編纂委員会・・・部室保管庫の整備報告(8/4現地調査、8/27~28日保管庫設置 諸費用155千円)。現役時代の名簿を完成させたいので協力をお願いしたい。
- ⑦現役からの報告・・・新入部員9名、テントが快適、夏合宿実施報告、学園祭模擬店(カレー)実施

2.OB総会について・・・1010年10月30日(土)

11:30~大学会館3階ミーティングルームにて
13:30~懇親会

次回役員会

1月15日(土)14:00~
てくのかわさき(溝の口)

■ 第29回OB山行（赤城山）報告

OB山行副委員長 山口貢三（18期）

【日程】2010年10月16日（土）10時15分 赤城山ビジターセンター集合

赤城神社参拝→11:00 登山口→12:25 黒檜山（赤城山最高点）→13:45 大タルミ→14:00 駒ヶ岳→
15:00 駒ヶ岳登山口ー覚満淵周遊

【参加者】嘉納（1）、吉野（2）、佐木（8）、鈴木（9）、安藤、丹羽（11）、榎本、山川（12）、小口（14）、
小浜（17）、植草、植草（美）、山口（18）、安武（20）、小野（34）、高野（安藤友人）

計16名

「あかぎさん」はいくつかのピークを持つ外輪山を含めた総称であり、赤城山という名前の山頂はない。大沼（おの）というカルデラ湖を取り巻く外輪山の黒檜山（くろびさん 1828m）、駒ヶ岳（1685m）が今回の目的地だ。

赤城山は観光地のイメージから登山の対象として捉えていなかったためか、初めて登るとい人が多い。夏はボート遊び、冬は氷上のわかさぎ釣りなどもっばら観光に近いアウトドアが展開されている。「頂上直下まで車で楽をしておいて山行と言えるのか」と現役だったら思っていただろう。利用できるものは遠慮しないのがOBのやり方なのだ。

前橋市内の広い道路が、幅はそのままに長い裾野を一直線に上まで続いている。沿道には食事処が軒を連ね、やはり観光地の雰囲気濃厚だ。やがて道はカーブが連続する山岳路となり、峠を越えた赤城山のカルデラ内に入ったところから風景は一変する。四方を山に囲まれた大沼周辺は夏なら格好の避暑地となり、冬は白い氷の世界になるのだろう。秋も格別だ。抜けるような青い空と秋色に染まった山に囲まれた大沼が静かに水を湛えている。

今回は1都4県から16名のOBが参加した。赤城神社で参拝をすませてから黒檜山登山口に向かう。最初から急登が続く道は黙々と登るしかない。途中大沼が見下ろせる場所で休憩をとったりしてゆっくりと登る。外輪山の稜線に着き左に少し行ったところが黒檜山山頂だった。ここで昼食とする。山頂はすでに人で一杯で人気の山だとわかる。展望がきく場所まで行き、昨年登った皇海山などの展望を楽しむ。次は駒ヶ岳へのミニ縦走だ。ここからの道はよく整備されていて階段もあるくらい急な下りになる。少し広くなった気持ちの良い鞍部で一休みしたあとに、少し登り駒ヶ岳に着く。名前ほどには印象の薄かった山頂からは急な下りとなるが、手すり付きの階段のおかげでどしどしと降りてゆく。下山しそのまま覚満淵を全員で周遊する。カルデラという地形のおかげで赤城山は稀有な景観を有し、上毛三山、百名山、日本百景の3冠にも輝く素敵な山であった。

今年のOB山行は天気3勝0敗、延べ50名以上の方が参加された。20期代が加わるようになり、今後も層が広がることを期待する。



黒檜山山頂にて 撮影 山口貢三氏（18期）

覚満淵にて：
遠く見える山も赤城の外輪山のひとつ



■ 2011年度OB山行予定

OB山行委員長 小野 恵美子 (34期)

2000年に始まったOB山行は11年目に突入です。年齢や期を越えて賑やかで楽しい山歩きをしています。2011年も年3回の山行を計画しています。初参加の方も大歓迎、皆様ぜひぜひご参加ください。

- 第30回 箱根・駒ヶ岳+記念行事 (温泉宿泊) 2011年1月22日 (土) ~23日 (日)
※ OB山行30回記念の山行です。
- 第31回 毛無山 (けなしやま) 2011年5月14日 (土)
※ 朝霧高原と富士山の雄大な展望が楽しめます。
- 第32回 金峰山 (きんぷさん) 2011年10月22日 (土)
※ 紅葉シーズン、百名山を目指します。

■ 第30回記念OB山行 (箱根・駒ヶ岳) 案内

OB山行委員長 小野 恵美子 (34期)

副委員長 小浜 一好 (17期)

副委員長 山口 貢三 (18期)

第30回目の記念山行として箱根 (駒ヶ岳) に集います。下山後は強羅の宿で記念の懇親会を企画しています。懇親会だけの参加も大歓迎です。是非多くの方のご参加をお待ちしています。

日 程 : 2011年1月22日 (土) ~23日 (日)

集 合 : 箱根 大涌谷・駐車場 (9:00)

※各地で分乗し車で向かうよう計画します。

コース : 22日 (土) 大涌谷 9:20 — 10:30 神山 — 12:00
駒ヶ岳 — 14:30 姥子 — (ロープウェー) — 大涌谷 = 車 = 「強羅 文の郷」に宿泊
17:30~ 30回記念懇親会 (お楽しみ満載の宴会)
23日 (日) 自由



交 通 : 電車・・・小田急線 海老名駅 7:40 = 車 (分乗) = 大涌谷

車・・・小田原 ~ 宮ノ下 ~ 小涌園 ~ 大涌谷、又は御殿場IC ~ 仙石原 ~ 大涌谷

※ 車を出せる方は、分乗にご協力願います。

宿 泊 : 強羅 文の郷 (ごうら ふみのさと) (強羅公園のそば)

会 費 : 1万円 (1泊2食 宴会込)

申し込み : 1月7日までをお願いします。

※ 集合場所は参加者次第でアレンジしますので、まずは申し込んでください。

※ 次の希望もお知らせください。

- ・車 (同乗可否)、車に同乗希望
- ・山行に参加
- ・宿泊を希望

申し込み先 : 小浜 一好 (17期) 電話 : 090-8647-7275 メール : kohamak@dream.com
山口 貢三 (18期) 電話 : 090-9962-7126 メール : k2syamaguchi@nifty.com
小野恵美子 (34期) 電話 : 080-5517-7320 メール : emiko150@s9.dion.ne.jp

■ 苗名小屋便り

小屋委員長交代のご挨拶

前OB小屋委員長 安藤 貞利(11期)

私事ですが、今年の2月で定年退職しました。その後、JICAのシニア海外ボランティアに応募して、9月にベトナムのホーチミン市での金属加工の職種に合格となりました。語学研修後、来年の3月末にはベトナムへ赴任することになり、任期途中ではありますが、小屋委員長を12期の榎本さんに交代することになりました。2008年に私が小屋委員長になりまして、小屋行事の定例化と小屋の整備を行ってきました。

小屋行事としては、春の山菜採り、夏の山行、秋のキノコ採りを行い、季節ごとに小屋に来てもらえるような行事としてきました。

また、これまでの小屋整備の仕上げとして、1階壁の垂直化を3年に亘り自分たちの手(DIY)で行ってきました。今年は、床板の張替えで小屋の基礎がほとんど腐っていることが判り、急遽、基礎の交換を中電産業にお願いして完了しました。また、通気口も設けて床下に湿気が溜らないようにしました。この工事で小屋の強度はかなり改善されて、手入れ次第で20~30年は維持できると思います。小屋をこのように維持できたのも、会長をはじめ、たくさんの方々に応援して頂いたおかげです。これからは、小屋委員として陰ながら小屋を支えていくつもりでおります。苗名小屋が多くのOB、現役の集う場所になるように、皆さん来てください。

新小屋委員長就任のご挨拶

新OB小屋委員長 榎本 吉夫(12期)

安藤さんの後任として、本当はもっと若い方と思っておりましたが、諸般の事情で役不足ですが、小屋委員長を努めさせていただきます。安藤さんのコメントにあるように、安藤さんの就任後、精力的に実施してきた小屋整備も、今年の思わぬ土台・大引きの腐蝕とその交換という大仕事を急遽プロに外注し、最後の壁の垂直化と1階床の張替(まだ1/3は残っていますが)も完了、これで本体の大きな改修作業はおぼ終了しました。今後は、内装の棚、壁の活用、収容スペースの工夫、太陽光発電の強化等は、皆さんの希望・アイデアをいただいて進めていきます。

今回40年溜まってきた不要物をかなり処分しましたが、捨てきれないものを取りあえず2階に上げてありますが、最小限の必要な物以外は1階に下ろさず、今後整理しますのでよろしくお願ひします。せっかく床を張り替えたので、広くきれいに使いましょ。 (尚、新品でワックスが効いていますので滑ります。転ばないように注意してください!)

還暦を過ぎましたが、当分フルタイムで仕事をしているので、今後の小屋活動、特に直近の雪下ろし作業は、皆様の協力と支援をいただかないと進めて行けませんのでよろしくお願ひします。

下記に来年の大まかな予定を示しますのでよろしくお願ひします。

日時	行事	備考
1月29日(土)30日(日)	第1回雪下ろし	雪の降り方により雪下ろしを追加することもあります。
2月19日(土)20日(日)	第2回雪下ろし	現役参加(ぜひ、よろしく)
3月19日(土)20日(日)21日(月)	第3回雪下ろし/春山散策	屋根ペンキ塗り
5月28日(土)29日(日)	小屋開き、山菜採り	雪囲い外し、水道開通
7月16日(土)17日(日)18日(月)	小屋山行、草刈り	
8月13日(土)14日(日)	小屋整備活動	
10月8日(土)9日(日)10日(月)	秋の小屋行事	紅葉狩り、キノコ採り
11月5日(土)6日(日)	小屋閉め	雪囲いの取り付け



壁の垂直化工事



現役の野中主将と斎藤光希さん(1年)も参加

■ 第22回シニアの集い報告

郡司直樹 (4期)

2010年10月31日(日)～11月1日(月)に、第22回シニアOBの集いが富士山麓西側の田貫湖を中心とした地域で、総勢52名の参加者を集めて開催されました。日曜、月曜の開催は昨年と同じパターンで、参加者数も例年並みでしたが、今年は関西方面からの参加者が1人も居なかったのは少し寂しかったです。

初日は、竜ヶ岳、足和田山の山行と、青木ヶ原樹海巡りに分かれて歩き、夕方に宿舎へ直行する組も合わせて朝霧高原の田貫湖ハーバルガーデンに集まりました。宿舎は全体が貸切りで、全8棟のコテージへ同期を中心に分散して宿泊する形となり、集いの宴は宿舎のレストランが手狭なために同じ経営の朝霧ジャンボリー・ゴルフクラブまでマイクロバスで送迎してもらって、ゴルフ場レストランで盛大に開催しました。

今回、集いおよび月例会の参加回数賞受賞者は次の皆様方で、下段に示します。

恒例の盛り沢山で楽しい会を例年通り全員の「みはるかす」合唱で閉めて、最後に集合写真を撮影しました。二次会は期毎に各コテージへ集まって、夜更けまで飲食と歓談を続けましたが、打ち上げて各自のコテージへ戻る時は強い雨に降られてしまい、傘を借りて帰る羽目になりました。

2日目は、長者ヶ岳・天子ヶ岳、浜石岳の山行と、朝霧高原散策が行われました。2日間に亘り富士山麓周辺を歩いたのに、皆が期待した秀麗富岳の勇姿はずーっと雲に遮られていて、谷上さんがまとめたオンラインアルバムによれば、富士山の全容が現れたのは浜石岳コース最後の薩 埴峠で、広重画によく似た景色でした。

- 集い：10回参加賞 ... 大黒美代子 (4)、密島英二 (6)、古宮智津子 (7)
20回参加賞 ... 塚原伸一郎、斉藤彦司、北見美智子 (2)、腰塚典明 (3)、亀井良英 (5)
- 月例会：30回参加賞 ... 古荘敏子 (6)、小林桂子、南雲和江 (7)
50回参加賞 ... 宮本高子 (2)、田中稔 (8)



1A 竜ヶ岳

参加人数・・・11名

早坂 宗 (8期)



前日のワングル総会・HCD 交流会の席上で、「台風 14 号は東海上にそれ、明日の午前中は晴れ、午後曇り、夜雨」との現地天気予報に基づき「予定通り実施」と決めたものの、朝どんよりとした曇り空の中、ヤキモキしながら登山口に向かう。

1A はマイカー分車で、9 時 15 分(集合 10 時)には全員が登山口駐車場に揃ったため、写真を撮って 9 時 30 分に出発できた。登山道は良く整備されており、色づき始めた雑木林の中を樹間に本栖湖を眺めながら 2 ピッチで石仏に着く。休憩した東屋からは眼前に大きく見えるはずの富士山の影も形もありません。ここからは笹原の中の道を、リンドウやアキノキリンソウを

愛でながら登る。ホタルブクロも咲いていた。11 時 35 分山頂到着。広い頂上は 1 人だけが食事中で静かだったが、直ぐに「平塚山の会」(40 人程度)が登ってきて喧騒に包まれた。霧が濃く近くの雨ヶ岳すら見えない。風はないが肌寒い。テーブル付ベンチで食事を摂り、記念写真を撮って、12 時 5 分下山にかかる。当初は本栖湖岸に下りる計画だったが、ピストンに変更する。吉野さんの電話では 2B は雨模様とのこと。石仏で一休み、相変わらず富士山は見えないが、朝霧高原方面は遠く駿河湾まで視界が開けてきて天子山塊も良く見える。時間調整しながらゆっくり下山したが、13 時 35 分には登山口着。宿舎にも 1A が一番乗りだった。待望のお日様は拝めず富士山も見えずだったが、なんとか雨にも降られず時折霧に濡れる程度で済んだのだから、まあ良しとするか。

1B 足和田山

参加人数・・・14名

吉野大次郎 (2期)



1B コースは富士の三足(足柄山、足高山(愛鷹山)、足和田山)のひとつ足和田山です。

日曜日ですが前日の台風の影響か、道路はガラ空きで各車予定より早く集合地「道の駅なるさわ」に集まりました。出発地紅葉台入口まで車で行き、降りそうな気配に全員雨具をつけて、9 時 45 分に歩き始めました。雨はほとんど降りませんでしたが、道はぬかるんでいます。

紅葉台を経て、展望が売り物の三湖台ではガスで富士山も他の山も湖も何も見えないのですぐ通過し、ひたすら足和田山を目指しました。

11 時 50 分足和田山(五湖台)につきました

がやはり五湖はおろか一湖も見えません。ゆっくり休んであとは一気に下ります。落ち葉を踏み、滑らないように気をつけながら下りました。13 時 30 分下山し、バスで道の駅なるさわに戻りました。天候も芳しくなく、紅葉もまだ早いのか、日曜日なのに登山者は少なく、静かな 3 時間の山行を楽しみました。

1C 青木ヶ原樹海巡り

参加人数・・・13名

谷上俊三 (4期)



紅葉も始まり行楽シーズン到来の日曜日、みんな張り切って西湖蝙蝠穴駐車場に予定時間より 30 分以上も早くメンバー 13 人全員集合。

天気は時折小雨の混じる悪天候。三湖台へ登っても視界は無いだろうし道も泥だらけ、リーダーとしては気が進まない。「三湖台はやめて樹海散策だけにしようか」と提案したらなんと全員一致で「賛成!」、山に登りたい人は一人も居ませんでした。

樹海散策は木の葉が傘になり少々の雨でも傘無しで歩け快適。ガイドツアーの団体に時々出くわす程度

で、鬱蒼として静かな樹海内を所々にある氷穴や奇樹を見ながらのんびりと歩きました。樹海を出て目の前にパッと明るく開けた芝生の「野鳥の森公園」は、周りにあるモミジやトチノ木、ドウダンツツジなどが紅葉を始めていて美しく映えて見えました。公園の東屋でのんびりと昼食。紅葉を見て回ったり、野鳥を観察したり思い思いの時間を過ごしました。樹海散策と紅葉観賞を十分楽しみました。

2A 長者ヶ岳・天子ヶ岳

参加人数・・・9名

腰塚典明 (3期)



集い2日目の朝は、昨夜からの雨がまだ少し残っていたが、予定通り実行すると決め7時前に、下山予定の白糸の滝付近の駐車場に車3台を配車。朝食を済ませて宿舎前に集合、8時に出発。

宿舎から田貫湖畔を歩いて長者ヶ岳登山口へ。田貫湖の湖面は静かであった。湖の北側の尾根の末端にある登山口から、階段状に手入れが施されて、ぬかるみも少ない尾根道を登る。登り一辺倒で、下りがない路を、精鋭ぞろいのメンバーは皆元気で、遅れもなく順調に登った。

雨は止んでいたが、休暇村からの道が合流する付近でガスが切れ、下界の田貫湖や、休暇村

付近の黄葉が少し見えた以外はずっと霧の中。2回の休憩をとり予定どおりに2時間で長者ヶ岳山頂(1336m)に。山頂付近もガスで、富士山は全く見えない。しかたなく10分の休憩で天子ヶ岳へ。林の中のゆったりとした下りと、それに続くわずかな急な登りを経て、45分で天子ヶ岳頂上に。

天子ヶ岳頂上付近もまたガスの中、もちろん、期待した展望台からの富士山の展望もなし。大きなヨウラクツツジのそばで豪華弁当(宿幹事お勧め)の昼食。11:50 出発。少し急な路をリンドウの花の色を楽しみながら下る。ガスで展望は望めなかったが、暗い杉、桧の植林の中では、霧による幽玄で不思議な光景を楽しみながらぐんぐん下り、1時間20分で最初の林道を横切る。

このころ、やっとガスが切れ晴れ間が見え、山頂付近に少し雪を頂いた富士山の雄姿を見ることができた。林道わきで休憩後は、平坦な、しかし雨後の水がわき出た路を進み、天子ヶ岳登山口の標識のある林道にでた。その後舗装された道を、雄大な富士山を眺めながら進み、白糸の滝駐車場に着く(14:10)。

皆元気で、けがもなくまた遅れるものもなく、ほぼ予定どおりに目的地に到着した。増水した名瀑「白糸の滝」を見学したのち解散。各人マイカーに分乗して帰途についた。

2B 富士展望の浜石岳・薩埵峠

参加者人数・・・8名

岡田光豊 (6期)

台風一過なのに午前中は降水確率60%とのこと。最大多数の最大満足のため、清水市由比をめざして出発

を決意。由比川河川敷に車を残し、本コース最高峰の浜石岳(707m)山頂に立つが、未だ富士は見えず展望はおあずけ(10時)。

暫く下ったころ、天は我に味方せり、薄日が差してきたではないか。時々、左手に開ける木々の向こうに駿河湾の紺碧の海を垣間見ながら、ヒバの落ち葉を踏みしめつつ、只管下る。聞こえるのは我らのおしゃべりばかり。立花池分岐を過ぎたころ、豪華弁当「彩り御膳」をオープン。さらに、孟宗竹の林を過ぎ、急降下の途中では、眼前に富士と駿河湾が飛び込んできた。



さつたとつげ
薩埵峠を旅ゆく8人衆

一同、欣喜雀躍。富士を背にみかん畑のなかの舗装道を歩き、13時15分、薩埵峠^{さつたとうげ}に到着。安藤広重が「東海道五十三次」に描いたのと同じアングルでの絶景を心ゆくまで楽しみ、本コースの所期の目的を達成することができた。この後、由比駅前を經由し、念願の「桜エビ」のかき揚げにありつくことができ、一同またまた大満足。15時45分、河川敷駐車場に到着し解散した。約6時間（食事等込）の行程でした。

2C 東海自然歩道 朝霧高原

参加人数・・・21名

小林桂子（7期）



朝、霧雨が残っていましたが、昼から晴れるという天気予報を頼りに30分繰り下げて9時宿舎を出発。飛び入り参加を含めて総勢21名が5台の車に分乗して出発地へ。9時30分歩き出す。

坦々とした道を田貫湖まで下ってゆくコース、年々齢を重ねるシニアの方々向きというわけで初めて20名を越した多勢。天気と平日ということもあって他のハイカーにあうこともなく独占状態でわいわいがやがやと歩く。

ここから富士山がよく見えるはずというところで休憩。次は東屋のある

見晴らし台で菓子など食べて活力を付ける。アップダウンのないコースでも15～16キロの長丁場をひたすら歩く。マユミの赤い実がきれいな道に感激。アケビの実を採ったりしつつ11時半に麓のトイレに到着。ここにテーブル、ベンチもあり昼食とする。1000円の高級弁当に舌鼓をうちゆっくり休んで12時25分出発。途中クリタケの群生を発見。大騒ぎをしつつポリ袋にずしりとゲット。思いがけないキノコ狩りに女性陣は興奮しきり。シジュウカラガンの群れを発見した人もいて歩みも軽くなった様。13時30分陣場の滝に到着。滝見物とトイレに30分ほどとって再び歩き出す。小田貫湿原は小さいけれどトンボの種類が多い所。アキアカネが少し飛んでいた。雲が切れて富士の頂上が見える。昨日の雨が雪になって白い帽子を被った姿をやっと見ることが出来、早速記念写真。15時30分田貫湖に到着。ここで解散とする。2つの吊り橋や小さいけれどいい滝、風情のある湿原と変化のあるコースだった。けれど天候が良かったらもっと爽やかな気分になれたらと心残りもあった1日。でも皆さん本当によく歩きました。

2D ゴルフ

参加人数・・・4名

早坂 宗(8期)



「ゴルフ」は夜来の凄雨でコンディションも悪いので服部リーダーの決断で一旦中止と決まりましたが、朝食を摂っている間に雨も上がり雲間に青空も覗き始めたので「これはプレイできるぞ!」ということで有志4人（久野さん、小出さん、早坂夫婦）がゴルフ場に向かいました。今日はガラガラでいつでもスタートOKかと思っていたら、意外にもコンペも入っており結構多くの人が集っていました。

朝霧ジャンボリーはフェアウェイも広く綺麗なコースで水はけも良くグリーンコンディションも良好。殆ど雨

に濡れることもなく、周りの山々を眺めながら楽しくラウンドできました。午後からは秀麗富士が眩しいくらいでした。参加者の名誉のためスコアは伏せておきます。

ゴルフ企画もたまには良いですね!

2009年4月、5月にインドのシッキムからブータンに高校時代の仲間3人で、3週間ほど行ってきました。

まず紅茶とトイ・トレインで有名なダージリンからシッキムに入り海拔4千数百mまで歩き、カンチェンジュンガ(8598m)を眺め、ダージリンに戻りました。その後、陸路で南部のプンチョリンからブータンに入り、ブータンで唯一の空港のある町パロで旅行会社の団体と合流して、氷河から流れているパロ川に沿って歩き、チョモラリ(7314m)と周辺のブータンヒマラヤの景色を楽しみました。

出発の半年ほど前からシッキムとブータンに行こうと相談を始め、この地域に実績のある国内の旅行会社と調整しながら計画を進めました。シッキムからパロまでは3人のトレッキング、パロからは旅行会社の企画したトレッキングとしました。

トレッキングはシッキム、ブータンとも一張りのテントに二人が基本です。テントには、フライと全身用のマットが用意されています。ガイド、コック、コックのサポーター、ポーター(ヤク又は馬の取扱者)が同行し、テントや個人用の寝袋、衣類などの荷物の運搬と食事やテントの準備をしてくれるので、トレッキングは、その日に必要な雨具、衣類、水筒、写真機などの軽い荷物で歩けます。シッキム、ブータンで歩いた道は、住民の生活の道で険しくなく、馬、ヤクで荷物を運搬する道でした。ヒマラヤ山麓のトレッキングは、学生時代に「里歩き」と称して歩いた道を、食事の準備、テント張り、撤収などから解放され、景色を楽しみながらの気楽なトレッキングでした。

シッキムはインドの州ですが、外国人が入るには事前の許可が必要で、州境のゲートで確認されます。実際には現地の旅行会社が手配し、同行したガイドが手続きしてくれました。シッキムのトレッキングは20代の若いガイドが先頭をどんどん歩いたので、最近まで入院していた先輩はひどい高山病に罹りましたが、準備していた高山病の薬は良く効き、翌朝には元気になりました。持って行った血中酸素濃度を測る小さな装置は、高山病の判断にとっても役立ちました。

ブータンで合流したメンバーは70歳を越えた単独の男性2名、60歳台の女性二人組、ご夫婦、どこかの女子大のワングルのOGでした。ブータンに入国するにはブータンの旅行業者との契約が不可欠で、宿泊を含めた全費用は国が決めています。インド人を除く外国人の入国は、表向きはパロ空港ですがインドから陸路で入国できました。パロは日本人の農業指導による水田が広がり、その中心にパロ川が流れています。自動車道が終わっても川沿いに水田は続き、そこからトレッキングが始まります。学生時代に夏合宿で歩いた木曾から富山県境を越えて八尾への道を思い出させる景色が続き、両側の山裾が迫ってきて森林となり、軍の監視所が現れ天然林に変わり、さらに上流へ歩き続けました。海拔4000mになると森林は消えブータンの民家が現れてきました。トレッキングの最終宿泊地のタンタンカは7000mを越えるヒマラヤの山々が間近で、地元の人のための宿泊施設があり、広く開けているので、周辺に住む人が年に1回の弓の試合をしていました。そこは同時に、若い人が集まる貴重な場で女性は天幕のもとで踊っていました。

ブータンのトレッキングのガイドは日本語を話せる現地女性で、女優だそうです。ガイドのほうが入力が良いと話していました。ツアーを計画した旅行会社からも1名同行しており、一日に歩く距離は十数kmで、歩きやすい道だったので参加者全員がブータンの山里を満喫しました。

今回のトレッキングでは心配していた現地でのガイド、ホテルの手配ミスなどのトラブルは皆無でした。またGSM対応の携帯電話を持って行ったのでインド国内(Soft Bank、DOCOMO)およびブータン国内(Soft Bank)の山間部まで使え、ガイドとの連絡に役立ちました。地図は洋書を扱っている本屋で入手でき、Google Earthから得られる地図も役立ちました。ヒマラヤ山麓のトレッキングに良い時期は春と秋で、夏は花が綺麗ですが雨季で、ヒルに悩まされるとのことです。OB会の皆様のトレッキングの参考にしてください。



ブータンヒマラヤ ジチュ岳(猫の耳) 6794m

YWWの皆様、すっかりご無沙汰をしております。海外生活が長くなり、YWW活動にも全く関与できなくなり申し訳なく思っておりますが、今回は会報の貴重な紙面を頂くことが出来ましたので、私が世界で1番大好きな国、バングラデシュをご紹介させていただければと思います。

まず、バングラデシュという国名をお聞きになったことがあるでしょうか？

年配の方は東パキスタンと言えぱ分って頂けるかもしれませんが、1971年に独立戦争を経てパキスタンから独立を勝ち取ったまだ若い国です。国土は日本の4割程の中に、1億5千万~6千万もの人が住んでいる、世界でも有数の人口密度が高い国です。そして、国土の大半がデルタ地帯にあるため、地平線がどこでも見渡せませす。

乾期と雨期で川の水位により大きく景色が変わり、時には洪水になることもありますが、現地の人は慣れたもので人的被害を出す洪水は嫌われますが、洪水により肥沃な土壌が維持され、食料自給率は100%を達成しています。第一次産業が今でも主ですが、縫製工業は世界の工場と言われる位になり、技術も世界でトップレベルです。日本企業は途上国への進出にあまりにも鈍感なため、欧米企業にかなり出遅れていますが、多くの有名メーカーの衣服がバングラデシュにて作られています。日本ではファーストリテイリングのユニクロが委託工場を持っていることでも知られています。

さらに、グラミン銀行のユヌス総裁はノーベル平和賞を受賞しており、今では企業が利益を上げることを前提としながらも、国の開発、発展にCSRとしてではなく、本業のビジネスにおいて貢献するソーシャル・ビジネスの取り組みは世界で高く評価されています(私個人の中では、これについては賛成しかねる面もある)。

グラミン・ユニクロや「雪国まいたけ」とグラミン財団が日本では知られています。

一方、私が活動していた農村においては、牧歌的な風景が見られ、村の人々は家族・親族や近所の人々との繋がりを大切にしながら素朴な暮らしをしています。

そんな中で同じような生活をしていると「豊かさ」とは何かと考えさせられることが多々あります。そして、バングラデシュの良さを残しながら、彼らのやり方で「豊かさ」を目指していくために、私に何が出来るのかを常に考えさせられます。

バングラデシュでの協力隊の2年間を一言で語ることは難しいですが、あえて言うならば「人の温かさ、豊かさを教わった」と言えるでしょうか。現代人にしてみれば面倒臭いと感じることもありますが、人間臭い生活こそが人の生き様だと教わったように思います。

6月に協力隊の任期を終え帰国していましたが、12月14日から今度は国連ボランティアとして再びバングラデシュに赴任することになりました。

今後、バングラデシュの様々な面をお伝え出来ればと思っています。

(元青年海外協力隊H20年度1次隊 バングラデシュ 村落開発普及員)

(UNV, Associate Community Services Officer, UNHCR Bangladesh)



バングラデッシュの乾期と雨期



10月21日9名の男女が、近鉄大和西大寺駅に集合。4期は京浜地区から離れている人が多く、シニアOBの月例会、集いの会に参加しづらく同期会が仲間に会える大切な機会。

互いに元気な姿を笑顔で確認、挨拶したあと、無料シャトルバスで平城宮会場へ。朱雀門から会場全体を俯瞰して大極殿へウォーク。当時の天皇在所の大極殿を見学。豪華で力強い建物、優雅な鴟尾(しび)、そして巨大な柱、梁(はり)は鮮やかな朱色(丹)、扉や窓枠、屋根瓦は青色、正に「青丹よし」の奈良の枕言葉があてはまる。遣唐使船の展示会場見学、吉備真備、玄昉、鑑真などの天平時代を創世した主役に想いをはせながら薬師寺

へ急ぐ。東塔、西塔、金堂や講堂の美しい「青丹よし」を眺め、玄奘三蔵院伽藍、平山画伯が30年かけて描いた大唐西域壁画を見学、ゴビ砂漠やヒマラヤの雪景に圧倒される。薬師寺から歩いて唐招提寺に到着。南大門を入り玉砂利を踏みしめると正面に国宝、金堂が眼前にせまる。建物と内部の巨大な廬舎那仏の偉容に圧倒され、まさに井上靖の天平の甕を彷彿させる。鬱蒼とした林の中の鑑真和上の廟堂に参拝。国宝鑑真像は公開されずビデオで拝観し、かんぼの宿奈良へ。歩数1万7千、12kmのウォーキング。

宿で奈良名物お粥朝食のあと、天理経由、万葉古道山の辺の道へ。この時期は紅葉には早い柿、みかん、無花果などの果物の収穫時でもあり沿道はカラフルで楽しい季節。まずは空海開祖といわれる長岳寺へ。簡潔で落ち着いた庭園、石仏や重文の阿彌陀像を観賞、寺の関係者による展示中の地獄絵の解説を聞き、一同感激、後ろ髪を惹かれる思いで寺を退出。崇神、景行天皇の前方後円墳を右手にみて柿畑を進む。大和盆地の向こうには二丈山、葛城山、金剛山、関西ゴールデンルートが霞んでみえる。やがて柿畑からみかん畑に景色が変化。途中柿、みかん、無花果などの100円単位の無人販売があり、更には焼き芋まで販売されている。都会では味わえない楽しい道草ウォーキング。思わず手を出して食べ歩き、昼食抜きとなった。途中、桧原神社の近くのみかん畑の丘から大和盆地が美しく展望できる場所があり、日本武尊が辞世の詞として生まれ故郷を偲んで詠んだ「大和は国のまほろば たたなづく青垣 山こもれる 大和しうるわし」の歌詞看板が立てられていた。

やがて林を抜け三輪明神の本宮の登山口、狭井神社、そして大神神社(三輪明神)へ到着、参拝後JR三輪駅へ。7kmのウォーキング。三輪駅で今回の同期会は終了。来年も皆元気で再会を誓いあった。

■ 期別便り

40年を経て集まる10期

伊藤允彦 (10期)



卒業してから40年経ったYWW10期生、下村・山本の兩人こそOB活動に参加しているが、他約20名はYWWとは縁が薄い年月を過ごしてきた。私が商社勤めの最後の海外勤務から帰った数年前、丸山が骨折って少人数で顔を合わせ、以来ほぼ毎年同期会を催している。青春真っ盛りだった当時に戻り時を忘れて過ごせば「40年分の後輩たち」がいる年齢の実感はない。この機会に遥かに若い後輩たちにあの時代の事を少し伝えたい。

その頃はワンゲル活動の全盛期で毎年40人前後の新入部員が押しかけていた。一方、学園闘争が全国の大学で燃え広がり始めていた時でもあ

る。2年生の時9期のリーダー層が、学園闘争にワンゲル部として関わるか否かで意見が対立し退部者が出る事態にもなっていた。

翌年10期がリーダーとなった。この頃YWV創立10周年の記念事業として推進されてきた山小屋建設が愈々大詰めを迎えていた。OB共々現役部員も、山小屋建設に向けた活動、資金集めなどに奔走した。

授業が予定通り行われなくなった異常な事態の中で、教授の方々にも山小屋建設への協力をお願いし、当時学長だった長州教授（後の神奈川県知事）からは、激励とポケットから1万円のご寄付を戴いた。

その年、紅葉に色づいた妙高山腹で落成式を挙げるに至り、先輩たちの夢を我々の代で実現に漕ぎ着けられたことに喜び且つ胸を撫で下ろした。ワンゲルの運営を11期にバトンタッチした頃、学園紛争は「大学の崩壊」を唱える三派全学連他の活動が更に過激化しキャンパスがロックアウトされる事態となった。一般学生は話合う場も失われたまま、じりじりと数ヶ月が過ぎていった。しかし封鎖解除に向けた一般学生の動きは水面下で進められ口伝えされ、漸く横浜公園内体育館での開催に漕ぎ着けた。予め編成された防衛隊が過激派の襲撃を放水で必死に防御する中、学生大会は教授陣との団交を行い「学制改革への道筋」の成果を得、最後に封鎖解除の決議がなされた。会場の外では過激派が待ち構えていたが、大会参加学生は達成感・安堵感に浸りながら整然と列を組んで退場することが出来た。

半年以上に亘った学園封鎖が解除された後は、短縮授業で遅れを取り戻し我々10期生は翌年（清水ヶ丘は6月末、弘明寺は4月末）に卒業していった。あの時代を共に過した10期生の集まりは懐かしい思いを一杯にして毎年参加者が増え、前は18名に達している。

■ YWV現役部員の活動紹介

主将 野中 拓登 (52期)

夏合宿 (8月9日～12日) 報告

上高地～涸沢～北穂高岳～槍ヶ岳～燕岳～中房と計画しました。上高地から入山した日と涸沢を登った日は天気が良かったのですが、その後天気が崩れました。南岳小屋到着時には台風接近により強い風雨となり、槍の肩まで行く予定だったその日の行程を南岳で切り上げ、翌日は槍沢沿いに上高地に下山しました。梓川沿いは強雨で、雨の思い出となってしまいました。



涸沢にて

・夏山 (8月23日～26日)

扇沢～爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳～八方尾根を縦走しました。非常に天候に恵まれた山行になりました。人が少なく、眼下に松本平、西に剣岳を望みながらの稜線歩きはとても気持ちがよかったです。唐松岳でのご来光、白馬での大盛りご飯と温泉も最高でした。



鹿島槍ヶ岳頂上にて

・PW 富士山 (9月5日)

富士山は、下宿から見えるという人もいるくらい身近な山なのに、なかなか行けないということで最近のブームに乗って行ってきました。車を2台したてて、ETC割引の恩恵も受け、気軽に行けました。4年生と1年生の交流の場にもなりよかったです。ただ、人がとにかく多かったです。

・苗名小屋整備 (9月18日～20日)

2人だけでしたが、夏の苗名小屋に現役として久々に入りました。溝を掘ったり草を刈ったりしました。今後は、より多く夏にも入れるようになればいいと思います。次は2月の雪下ろしでの小屋入りとなります。

・部室の改装

OB 会部史編纂委員会の力を借りて、部室の老朽化していた自作の棚などを新しいスチールラックで置き換えました。かつての資料もきれいに保管できるように整備されました。部室だけでなく、テント購入に関しても今年度はOB会の方々にはお世話になりました。ありがとうございました。今年(54期)の新入生は9人です。例年よりも多い人数で、うれしい限りです。全員1年生です。

・常盤祭カレー販売 (11月5日～7日)

例年通りカレーを販売しました。52回目となる今年は当日に関わる人数がなかなか割けなくて大変でしたが、無事に売ることができました。来ていただいたOBの方、ありがとうございました。

■ 編集委員からのお知らせ

【訃報】 松田康史氏(16期)が2010年2月10日に肺ガンのため逝去されました。
心からご冥福をお祈りします。

○ハイキング保険に加入していますか？

安心して山歩きを楽しむために、ハイキング保険への加入をお勧めします。YWVOB 会報 45 号に OB 会、シニア月例会の会則や規程とハイキング保険の案内を詳しく掲載してあります。

○第30回記念OB山行に、シニア月例会から寄付

OB 山行の30回記念にシニア月例会から5万円が寄付されることになりました。

○合同同期会、賑やかに開催

9月4日(土)に横浜駅西口で8、9、10期の合同同期会が開催されました。25人が学生時代に戻ったかのように元気に語り合いました。来年2011年9月10日(土)の再開も約束。詳しくはHPをご覧ください。

○スイスに響くホルンの音色

8期の池原さんがホルンクラブのメンバーと共に、10月7日から4日間、スイスのINTER FOLK フェスティバルに招かれてスイス各地で演奏をしてこられました。ホームページにスイスの美しい写真と詳しい話が掲載されています。

○常盤祭 52年目のカレー店

11月7日、編集委員と会計幹事の3人で常盤祭恒例のワンゲル、カレー店に行ってきました。今年は、部員は増えたものの、日程がうまく合わず、店を切り盛りしていたのは2年生の佐藤さんと1年生の谷口さんの2人だけ。でも頑張って250食を売り上げ、激励に行ったときにはカレーは完売でした。



2年佐藤さん 1年谷口さん、軍司さん



スイスの山々に響き渡るホルンの音色
2010/10 写真提供 池原氏(8期)

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチなどどしどしお寄せ下さい。

宛先 松本 (8期) marihiro@cc.catv-yokohama.ne.jp
下村 (10期) shimomurayouko@ybb.ne.jp
石垣 (20期) gakky@s2.dion.ne.jp

YWVOB 会会報第 46 号

発 行 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日 : 2010 年 12 月 27 日
発 行 責 任 者 : 鈴木弥栄男(9)
編 集 責 任 者 : 編集委員長 下村 蓉子(10)
編 集 集 : 編 集 委 員 松本真理子(8) 石垣秀敏(20)
印 刷 所 : 株式会社 カワチャ・プリント (東京都港区新橋 5-31-7)
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。